

毎年、前年度の取り組み(安全目標、安全重点施策)を振り返ることでその成果と課題を明確にし、当年度の取り組みを決定しています。

(1) 安全目標 (2024年度)

Plan

人身傷害事故の削減

(2) 安全重点施策 (2024年度)

Plan

- ①.安全態勢の強化
- ②.安全態勢を支える人材作り
- ③.安全輸送に関する設備投資

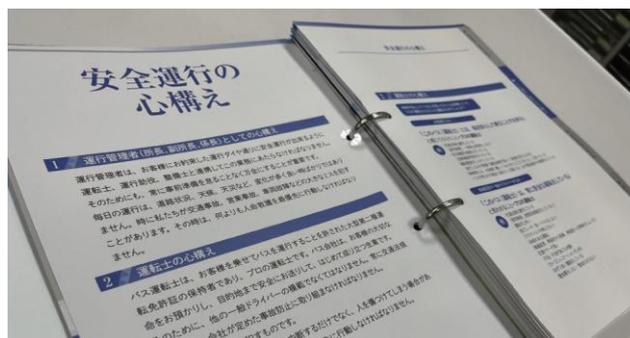
(3) 安全重点施策の実行

Do

① 安全態勢の強化

(I) 事故防止

運転士の心構えや基本業務は「運転業務作業標準」に定めており、これに従い業務を行います。その中でも、運転操作の基本となる「重大事故撲滅5項目」は乗務に際して最も重視している安全の確行行動です。また、期首には「安全目標」と「安全重点施策」を定めこれを周知し計画的に事故防止策に取り組んでおります。



運転業務作業標準

●重大事故撲滅5項目

1. 発車の操作

①全ての発車時、指差確認呼称「左・前よし、右よし、車内よし、発車します」を行う。

2. 交差点での操作

①黄色信号時の進入は絶対厳禁する。（歩行者信号点滅時は速度を緩め、停車の準備をする。）

②全ての右折時には、交差点中心で必ずアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルに足を置き一旦停車した後、安全確認し、徐行（10km以下）して進行する。（矢印信号は除く）

③全ての左折時には、ハンドルを切る手前で必ずアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルに足を置き一旦停車した後、安全確認し、徐行（10km以下）して進行する。（矢印信号は除く）

3. 横断歩道での操作

①横断歩道を知らせる一つ目の道路標示位置（50m手前）で、歩行者の有無を確認し「歩道よし」と呼称する。

②横断歩道に進入する前には、必ずアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルに足を置く。

4. 車間距離の操作

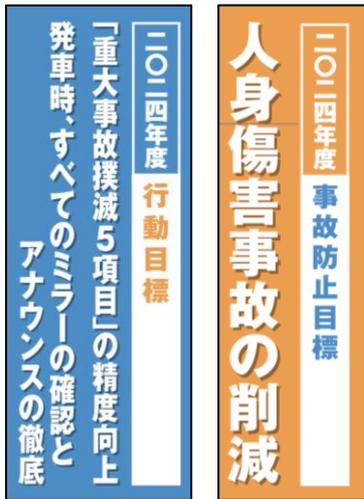
①走行中は、最低バス1台（10m）以上の車間距離を確保する。

②停車中は、前車のナンバープレートが確認できる（2m以上）車間距離を確保する。

5. 危険を予知した時の操作

①すぐに（1m）停車できる速度で徐行を行う、または一旦停車する。

● 事故防止目標ポスター



輸送の安全に関する目標と行動目標について、ポスターを作成し各営業所に掲示しています。

● 安全カード



運転士と所長・統括運行管理者とのコミュニケーションツールとして活用しています。

● リボン



Ⅳ 運行管理

● IT点呼

運行管理者が行う「点呼」「運行管理」は安全輸送の最重要な業務です。その運行管理者の業務を支援すべく、2017年3月より「点呼支援システム（通称：IT点呼）」と2018年3月より「バスロケーションシステム」を順次導入しています。運行管理にITを連携させることで、安全性を更に向上させています。

① 概要

目的	設置機器	内容
出出勤状況の可視化	大型表示器	大型モニターに出勤（退勤）時間等を表示する事で運転士に点呼状況を共有し、ミスを防ぎます。
厳正な点呼	静脈認証装置 アルコール検知器 免許証リーダー	静脈認証とアルコール検知器（記録画像付）を併用することで、確実に厳正な点呼を行い、出退勤の時間が各種機器により自動で記録されるため、点呼簿への記入などの作業が無くなると同時に記入漏れが無くなります。 また、アルコール検知時に免許証所持確認を行い、免許情報により有効期限切れを防止します。
健康状態の確認	問診用タブレット 体温計（非接触型） 血圧計（通信型）	乗務の可否を判断する際に必要な運転士の体調については、タブレットによる問診・体温測定・血圧測定により客観的に判定する為、体調不良者を乗務させる事が無くなります。また、全員の健康意識の向上が期待出来ます。
セキュリティの強化	ICタグ ICリーダー	ICタグ、ICリーダーで、車両の鍵と金庫の持ち出し・返却管理を行う事で、セキュリティの強化を図ります。

② 出勤状態の可視化

大型モニターを使用することで、出勤状態を営業所内で可視化することが出来るようになりました。

出発	状況	車番	ダイヤ	出勤	名前	ALC	健康	鍵	金庫	点呼
西久保	中間	208	P04	11:26		あと3分	-	-	-	-
西久保	出勤	417	C01	11:28		あと5分	-	-	-	-
折戸	中間	301	C18	11:32		あと5分	-	-	-	-
飯沼	中間	2976	E02	11:35		-	-	-	-	-
西久保	中間	556	C58	11:36		-	-	-	-	-
水旗館	中間	498	C17	11:42		-	-	-	-	-
西久保	中間	789	A18	11:46		-	-	-	-	-
西久保	中間	340	A04	11:51		-	-	-	-	-

モニター



点呼風景

③ 厳正な点呼

点呼時に運転士が静脈認証を行う事で、各種検査結果が点呼用画面に表示され、確実に厳正な点呼を行うことができます。(最大5人まで点呼可能)



静脈認証装置



点呼者用画像表示

アルコール検知時に免許証所持確認を行い、免許情報により有効期限切れを防止します。



④健康状態の確認

国土交通省で作成した「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」に基づいた、タブレットによる問診・体温測定・血圧測定を行う事で、日々の運転士の健康状態を客観的に確認することにより「健康起因による事故」を防止します。



「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」に沿った問診



血圧計（通信型）

乗務可否基準	
タブレット問診内容	「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」参考
体温	当社基準値にて設定
血圧	

※体温・血圧数値は当社基準による
 ※血圧測定は健康診断で高血圧と診断された対象者が実施

⑤セキュリティの強化

車両の鍵と金庫については、各保管場所に設置したICリーダーに運転士が所持しているICカードと鍵・金庫に装着しているICチップを読み込ませる事で、持ち出し・返却管理を行い、セキュリティの強化を図ります。



ICカード・ICカードリーダー



ICタグ（鍵）



金庫リーダー

●バスロケーションシステム

- ①バス位置情報
- ②遅延状況の把握

「バスロケーションシステム」を導入した事で、リアルタイムでバスの位置情報を把握することが出来るようになりました。

また、道路渋滞などにより発生する遅延状況もモニターで確認することが出来るようになり、運行管理は向上しました。



バス位置情報



遅延情報

③運行経路の間違い防止

運転席にある「電子スターフ」に運行経路間違いを防止する行先案内表示が表示されます。



運転席にある電子スターフ

Ⅳ 健康管理

安全運行の基本は社員ひとり一人の健康管理からです。近年、全国的に健康を起因とする事故が発生しています。当社では法定の健康診断以外にも様々な体調管理に取り組んでいます。

- 脳ドック 人間ドック
疾病の予防や早期発見、生活習慣の見直しのための取り組みとして、人間ドックや脳ドックを定期的に行っています。
- 睡眠時無呼吸症候群（SAS）
当社では、SASの早期発見のため、全運転士を対象に3年毎にスクリーニング検査を行っています。
- 感染症対策
インフルエンザの予防接種は毎年実施しており、公共交通事業者としてお客様と社員の命を守り計画した運行を維持すべく感染症対策を行っております。
- 眼底検査
2024年度より、2年に1度実施していた眼底検査を毎年の定期健康診断時の項目に追加しました。眼底検査により、病気の早期発見に努めています。



Ⅳ 会議

定期的に開催される各種会議において、各施策の進捗や課題を常に確認し、早期に改善できる体制を構築しています。

- ・ 経営連絡会議 年12回
- ・ 営業所長会議 年12回
- ・ 本部事故防止委員会 年12回
- ・ 支部事故防止委員会 各営業所四半期1回程度
- ・ 整備管理者会議 年12回
- ・ 静鉄グループ運輸安全マネジメント委員会 年1回



支部事故防止委員会



本部事故防止委員会

(V) 職場巡視

経営トップ、安全統括管理者は、毎月運行営業所を巡視することで双方の意見交換を行い綿密な安全管理体制を確認しています。

- ・ 経営トップによる職場巡視（毎月1回程度）
毎月1回各営業所へ訪問し、運輸安全マネジメントに対する取組み状況確認や現場部門での問題点を共有しています。
- ・ 安全統括管理者による職場巡視（毎月1回程度）
毎月1回各営業所へ訪問し、現場部門での問題点を共有しています。



職場巡視

② 安全態勢を支える人材作り

(I) 人材確保（採用活動）

バス輸送の根幹を支える運転士。

バス業界の最大の課題は、運転士不足です。

当社ではこの課題を解消すべく様々な採用活動に取り組んでいます。

● 各種支援制度

- ・ 大型 2 種免許取得支援
- ・ 充実の教育

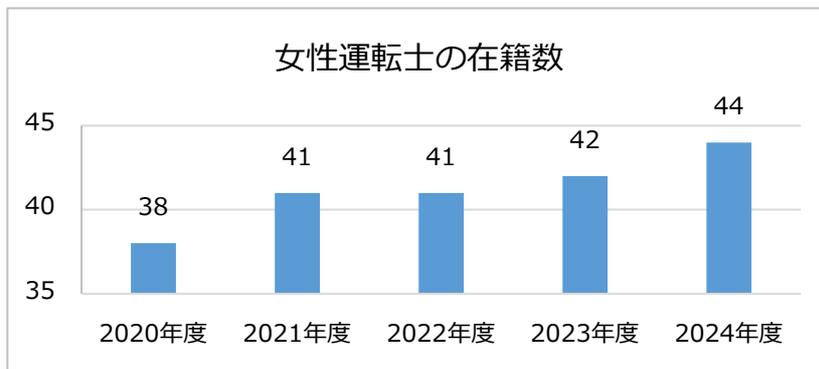
（専用コースで技能に応じた教育プログラムをベテラン教官が指導）



● 女性の人材確保

当社では約44名(2025年3月31日時点)の女性運転士が活躍しています。

その在籍率は全運転士の約8%となり、業界平均（2%）を大きく上回ります。女性が安心して働ける環境整備と教育に力を入れています。



女性用トイレ



女性用休憩室

- バス体験乗車会

当社では、採用活動の一環として定期的に「バス体験乗車会」や「会社説明会」を開催し、バス運転士の仕事の魅力（楽しさ、やりがい）を紹介しています。



- TVCMの放映



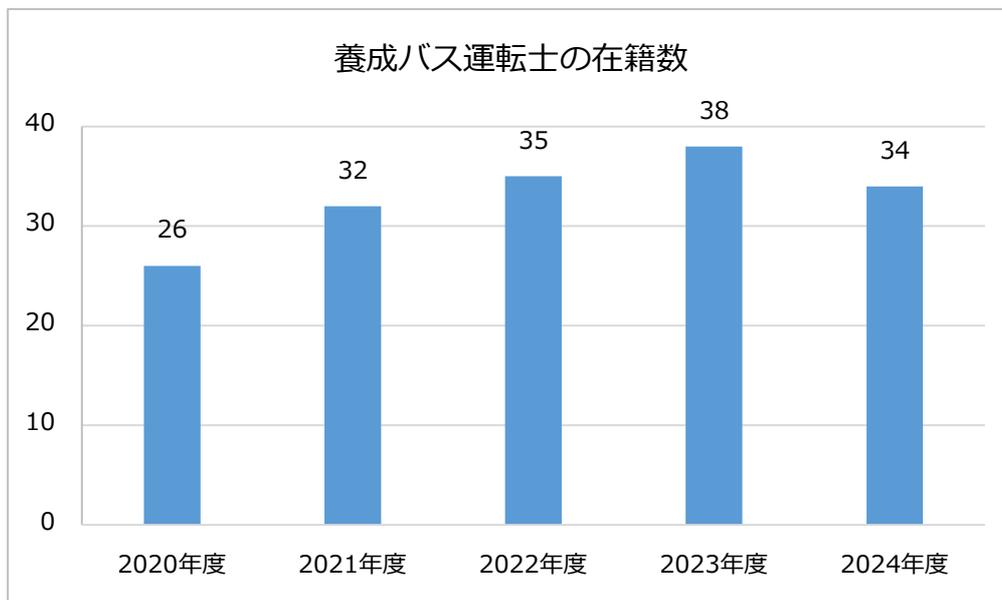
(II) 育成

● 養成バス運転士

当社ではバス運転士を希望する全国の高校生、専門学校生の新卒採用に力を入れています。特に「養成バス運転士」制度は、バス運転士に必要な免許である大型2種免許を取得できるまでの期間を、運転士以外の職種（事務や整備、窓口係）として働きながら、運転教習などの研修を通し、バス運転士に関する専門知識や技術を学びます。

● 運輸基幹職

運輸基幹職は、大学生の新卒者がさまざまなキャリアステップを自ら選択していくことができる職種です。約5年間の運転士のキャリアを積んだ後は運行管理の業務や管理部門で運転経験を活かしたダイヤ作成や安全対策を検討するなどあらゆる場面で力を発揮することが可能な職種です。



研修風景(運転訓練)



整備業務風景



事務業務風景

養成バス運転士キャリアモデル



運輸基幹職キャリアモデル



(Ⅲ) 研修

研修は、社員の年齢・勤続・職務内容・職務経歴・役職に応じて計画的に実施しました。

● 運転士

区分	対象者	教育内容	受講者人数
乗務 年代別	1ヶ月目	運転技能、接客接遇の確認	42名
	3ヶ月目	運転技能、接客接遇の確認	35名
	6ヶ月目	運転技能、接客接遇の確認	28名
	12ヶ月目	運転技能、接客接遇の確認	36名
	24ヶ月目	運転技能、接客接遇の確認	35名
	5年目	接客接遇の向上、運転死角 身体障害者講師による車いす教習	15名
	10年目	接客接遇の向上、運転死角 身体障害者講師による車いす教習	19名
	30年目	接客接遇の向上、運転死角 身体障害者講師による車いす教習	3名
	36ヶ月毎	適性診断と運転技能教習 (安全運転訓練車)	145名
年齢別	60歳	接客接遇の向上、運転死角 身体障害者講師による車いす教習	11名
	65歳	接客接遇の向上、運転死角 身体障害者講師による車いす教習	3名
	60歳以上	適性（適齢）診断と運転技能教習 (安全運転訓練車)	58名
業務/役職別	高速/貸切 運転士	救命救急講習	52名
		雪上訓練	12名
		運転技能訓練（高速・山間地走行）	134名
全運転士	全運転士	危険予知教習 (ドライブレコーダーを用いた教習)	全運転士
		重大事故振り返り教習	全運転士
		運転業務作業標準を用いた運転操作及び 接客教習（ZOOM）	全運転士
		外部機関による運転技能向上 (中央研修所、クレフィール湖東)	42名
		マイクアナウンス研修	49名

● 運転士以外

区分	対象者	教育内容	受講者人数
職種別	養成運転士（1年目）	運転業務作業標準を用いた基礎講習 安全研修センターを用いた実技教習	2名
	養成運転士（2年目）		3名
	養成運転士（3年目）		2名
	初任統括運行管理者	法令教習、統括運行管理者の実務教習	1名
	整備士	整備主任者技術研修	33名
		整備主任者研修（法令）	26名
		自動車検査員研修	3名
		タイヤ空気圧充てん業務の作業者に関する安全教育	3名
	非乗務員	運輸安全マネジメント研修	155名



危険予知教習



マイクアナウンス研修



整備主任者技術研修



技能確認講習（安全運転訓練車）



作業標準教習（WEB）



救命救急講習

(Ⅳ) 訓練

訓練は実践を想定して行っており、近年では災害リスクが高いと想定される「地震・津波」発生時の初動訓練を強化しています。

● 総合防災訓練の概要

① 目的

地震・津波発生時の迅速な避難行動・旅客誘導の強化及び防災意識の向上

② 想定

南海トラフ巨大地震が県内の広い範囲で発生し、沿岸部を中心に津波が押し寄せ、当社の営業エリア全域に甚大な被害が発生

③ 訓練内容

- ・避難行動（津波ハザードマップによる避難先の確認）
- ・旅客誘導（走行中の一時停車と車内アナウンスの実施）
- ・情報伝達（安否確認システム、無線の使用）
- ・消火活動（火災時の消火）
- ・発電（災害対策車を活用した電源確保と発電機を用いた無線起動訓練）

④ 実施日

・2025年 3月 11日



安全運転訓練車使用訓練



消火器使用訓練



三角板訓練



非常扉訓練

(V) 発表会

運転士の運転技術・安全意識の向上とプロ意識の醸成を目的に、毎年競技会を開催しています。

●第7回静鉄バスドライバーズコンテスト

①日時 2024年11月 2日 (土)

②会場 安全研修センター

③競技種目

- ・始業点検
- ・車イス
- ・タコつぼ
- ・方向転換
- ・隘路進入
- ・鋭角
- ・直進障害
- ・幅寄せ

④競技方法

各営業所の代表者が日頃の成果を競います。



出場者集合写真



方向転換



直進障害



隘路進入



鋭角



入賞者

● 静岡県バス協会 第3回バスドライバーズコンテスト

(社) 静岡県バス協会の主催で協会会員11社から各1名が参加し運転技術を競いました。

①日時 2025年1月 30日 (火)

②会場 遠鉄自動車学校磐田校

③競技種目

- ・ 鋭角
- ・ 方向転換
- ・ 直進障害
- ・ S字



当社からは社内ドライバーズコンテスト優勝者が参加し、3位入賞しました。

(VI) 新たな取り組み

当社では、社員が自社のありたい姿や仕事の価値観を共有するため、2019年度に組織ビジョンを作成し、以降毎年研修を通じて社員に浸透させてまいりました。当年度は、組織ビジョン「矜持を胸に 私たちみんながこの街で 幸せになるために」の実現のため、部門内にてメンバーを巻き込んだ組織的な活動が推進でき、また自主的な改善活動を継続する文化が組織に浸透している状態をゴールと致しました。今後も組織ビジョンの実現に向け取り組んで参ります。

組織ビジョン
「矜持を胸に 私たちみんながこの街で 幸せになるために」

Communication Message 46 | 会社からのメッセージ:46
JIP'24成果発表会の開催



しずてつジャストライン株式会社
JIP'24 成果発表会

毎年グランシップにて盛大に行われるJIP (Justline Improvement activities Project)の本選。今回で3回目を迎えましたが、今年も総勢41チームの中から予選会を勝ち抜いた11チームと部門横断の2チーム(安全啓発室チーム/パスフェスタチーム)による、熱いプレゼンテーションが繰り広げられました。

【開催結果】

〈最優秀賞〉西久保運転士②チーム
テーマ:海外のお客様にも分かりやすい案内を作る!

〈優秀賞〉営業推進課チーム
テーマ:初めて乗る人にもやさしいバスへ ~ナンバリングガイドラインの策定~

地域交通課チーム
テーマ:営業所の業務負担軽減と理解度向上 ~OD調査の見直しについて~

〈ウェルビーイング賞〉人材支援課チーム
テーマ:しずてつジャストラインの魅力の発掘と発信 ~いいねプロジェクト「職場編」~

〈特別賞〉3年連続本選出場チーム
岡部整備チーム
テーマ:「早期発見!」~ストレスは早めの治療がカギ!~

【総評】
今回私は初めて予選から本選まで審査員として参加しましたが、参加したどのチームも自身の予想を遙かに上回る内容で、予選も本選も甲乙つけ難いほどの出来栄でした。継続は力なりという言葉がありますが、恐らく皆さんお一人お一人がこの3年間の活動による成長を感じられたのではないのでしょうか。私自身、これまで認識できなかった会社の課題に気づかせていただくとともに、熱い思いを持った社員の皆さんにこの会社は支えられているんだということを実感することができました。組織ビジョン「矜持を胸に 私たちみんながこの街で 幸せになるために」の実現に向けて、共に取り組んでいきましょう。



取締役社長
田中 尚弘



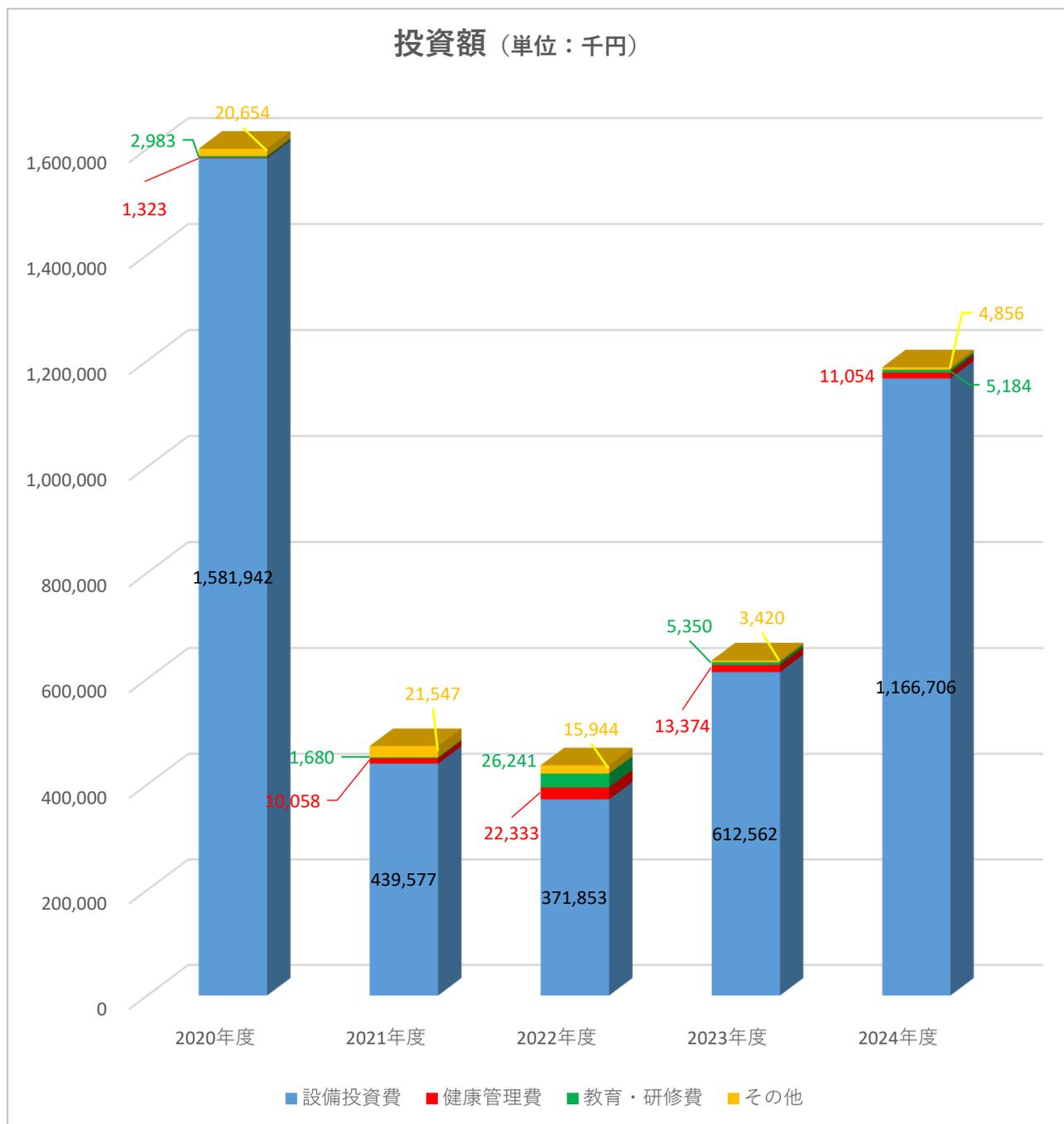
静鉄バスのムービーが見られます。

インナーコミュニケーションポスター

③ 安全輸送に関する投資

(I) 2024年度の実績

2024年度の安全輸送に関する投資額は次のとおりです。



① 会議

以下の会議にて、安全目標に対する達成度と安全重点施策の進捗管理と効果検証（問題点の洗い出し等）を行いました。

- | | | |
|-----------------------|---|-----|
| ・ 本部事故防止委員会 | 年 | 12回 |
| ・ 整備管理者会議 | 年 | 12回 |
| ・ 運輸安全マネジメント委員会 | 年 | 4回 |
| ・ 静鉄グループ運輸安全マネジメント委員会 | 年 | 1回 |

② 監査

- ・ 点呼監査 始業点呼が厳正に行われているか確認（年12回）
- ・ 添乗調査 乗務中の重大事故撲滅5項目の精度を確認（随時）
- ・ 街頭監査 交差点における、重大事故撲滅5項目の確認及び操作精度と道交法遵守の確認（年12回）



点呼監査



静鉄グループ運輸安全マネジメント委員会

③ 内部監査

安全管理体制の構築・改善における取り組みの適合性および安全管理体制の有効性の確認を定期的に行い、経営トップと安全統括管理者に報告します。

- ・ 監査人 （総務部総務課）
- ・ 被監査対象 （経営トップ、安全統括管理者、安全運行統括部）
- ・ 年間1回 （1月）

年度末に安全目標及び安全重点施策に関して「評価」し「改善」を行いながら次年度の「計画」を策定しております。

① 安全目標（2025年度）

バス停発車時の乗客傷害事故の撲滅

② 安全重点施策（2025年度）

I.安全態勢の強化

- ・「運転業務作業標準」に基づいた手順の完全実施
- ・「安全運転訓練車」「アイマークレコーダー」を活用し個々の基本操作を徹底させる

II.安全態勢を支える人材作り

- ・安全啓発室を用いた安全意識の高揚
- ・人材の確保
- ・管理者の指導力の向上

III.安全輸送に関する設備投資

- ・AIカメラ導入の検討
- ・先進車両の導入による運転士負担軽減
- ・中期計画に沿った営業所設備の新設、運用方法の検討